

夢
ある
まちへ

地域とともに生きる



ホームは尼僧の願う“靈山浄土” 家族や地域の連携と職員の 手厚いケアで暮らしを支える

千葉県匝瑳市にある「グループホーム^{てんく}天鼓」は、日蓮宗の尼僧の思いがこもったグループホーム。回想法や理学療法士によるマシンを活用したリハビリなど頭と体の双方に働きかけるケアを実践。他にも、ターミナルケアや地域交流に力を入れており、家族や地域とともに成長し続けている同ホームの取り組みを取材した。



株式会社セブンワークス
「グループホーム天鼓」

千葉県匝瑳市飯倉台 10-15 TEL.0479-73-6221
0479-73-5181



↑同ホームでは歌や民謡を月にそれぞれ8回開催。写真はピアノの先生を招いた音楽会の様子
→2011年に新設した避難用すべり台



↑玄関先でサヤエンドウを収穫する入居者



↑日蓮宗の僧侶でもある金沢施設長がホームで入居者の供養を行う



→デイサービスにあるマシンの数々



居室で職員と話に花が咲くこともしばしば



取材当日はデイサービスの利用者も一緒に参加してグループ回想法を实践



↑戦争当時の出来事を皆の前で熱く語る入居者



↑生活相談員の向後奈々さん
←当時の記憶を思い出せるよう話題を引き出すのがポイント

回想法での思い出話は 入居者がいきいきと輝く瞬間

昔のことは
実に正確に語る

JR総武本線飯倉駅から徒歩5分の住宅地の一角に拠点を構える株式会社セブンワーカーズは、「居宅介護支援事業所すずらん」をはじめ、「訪問介護事業所すずらん」や「デイホームすずらん」、「グループホーム天鼓（2ユニット）」の4つの介護保険事業のほか、ヘルパー養成事業（すずらん介護福祉学院）や介護タクシーなど幅広いサービスを展開している。

今回ピックアップする「グループホーム天鼓」は2004年8月にオープン。「認知症になると精神病院への入院を余儀なくされる人生ではなく、これまでどおりの生活が続けられるということを私たちの取り組みを通じて証明したかったのです」と同社の代表でもある金沢恵施設長が話すように、同ホームでは、回想法やリハビリ、ター

ミナルケアなど充実したケアを通じて、入居者の「その人らしさ」を支え、最後まで安心して暮らすことができる事業所づくりに尽力している。

回想法では、「回想法トレーナー養成講座」を修了した職員が「グループ回想法」を実践する。8人程度が1つのチームとなって「先生」「運動会」など毎回テーマを設定、一人ひとりの入居者から思い出話を引き出していく。生活相談員の向後奈々さんは、「日常のちょっとした会話を発展させて回想法を実践することもよくあります」と説明するように、皆が集まったときに即興で実践できる点も「グループ回想法」のメリットだと指摘する。取材当日も向後さんが「戦争の思い出」をテーマに回想法を始めると、身振り手振りを交えて当時の思い出を熱く語り出す入居者の姿が印象的だった。

リハビリについては、病院の理

学療法士が定期的に同ホームに訪れ、入居者の可動域検査を実施。一人ひとりに合ったリハビリプログラムを作成する。リハビリはデイサービスにある5台のマシンを使って行われる。

「リハビリメニューを記載したカードを肌身離さず、皆さん積極的にトレーニングに励まれています」（金沢施設長）

家族を巻き込む ターミナルケアを实践

同ホームでは10年3月からこれまでに8人のターミナルケアを行ってきた。とかくホーム任せになりがちなターミナルケアだが、金沢施設長はこれに異議を唱える。「ターミナルケアはご家族にとって『親の死』と向き合う大切な時間です。ですから、ご家族とは死についてよく話し合い、1週間は一緒に泊まってもらうなど、ご家族を巻き込んだケアを徹底しています」

この考えに対して当初、「なぜそこまでしなくてはいけないのか?」という家族の声もあったが、実際ターミナルケアにかかわってみると、「家族間の絆が深まった」など理解が得られるようになることが

多い。また、「職員からは『もっとかわりたかった』という声も聞かれます」と金沢施設長が言うように、「人の死と向き合うターミナルケアは職員にとっても自己を高めるきっかけにもつながっています」と強調する。

認知症の勉強会など 地域の理解を深める

「認知症になっても安心して暮らせる町づくり」を目標に掲げる同ホームでは、地域に向けた活動にも力を入れている。11年9月には同ホームの家族会と連携して、認知症の理解を促すチラシを作成、地域に配って回った。

「認知症に対する偏見をなくし、地域全体で支えていくことがこれからはますます求められます」

さらに、今年から地域の人と定期的に開いている運営推進会議で認知症の勉強会を開催するなど、認知症の啓蒙活動をさらに強化していく予定だ。

「職員には感謝しています。安全・安心の生活は、熱い思いの職員が大切。研鑽を積んで入居者様の笑顔につなげていきたいと思います」（金沢施設長）

（撮影：関口宏紀 文：編集部）



金沢恵施設長